

両輪で

明日へ。


CYCLE

JKA Social Action

競輪とオートレースの補助事業

TOPICS



自転車の力でアジアを、
スポーツ界を盛り上げる

日本サイクルスポーツセンター



乗る人にも使う人にも
やさしく

デイサービスセンター「こもれび」福祉車両



毛髪を使ってオーバー
トレーニング症候群を予防

新潟医療福祉大学 健康科学部



SDGsの達成に向けて万博から
未来につながるワクワクを

大阪・関西万博「ミライ × 未来ソーダ」



高校生が地域の人と
協力して町おこし

静岡県立天竜高等学校 有志サークル天竜ラボ



ロボットへの情熱が
農業を支える力に

法政大学「人間支援ロボット研究室」

CYCLEアンバサダー 宇賀なつみさん



公益財団法人JKA
Japan Keirin Autorace foundation



Auto Race



JKA Social Action

競輪とオートレースの補助事業

CONTENTS

4P 競輪とオートレースの補助事業 概要

5P 競輪とオートレースの補助事業の流れ

6P **競輪とオートレースの補助事業** 現在公開されているコンテンツの数

7P Webサイト「CYCLE JKA Social Action」の紹介

補助事業紹介

8P 振興事業補助 | 東京都 | 自転車(競技力向上等)

自転車の力でアジアを、スポーツ界を盛り上げる

アジア有数の自転車競技施設で行われた合宿を競輪選手が訪問

10P 振興事業補助 | 新潟県 | 研究補助

毛髪を使ってオーバートレーニング症候群を予防

ガールズケイリン選手が大学の研究室を訪問

12P 振興事業補助 | 静岡県 | 新世紀未来創造プロジェクト

高校生が地域の人と協力して町おこし

オートレーサーが静岡県内の高校に潜入

14P CYCLE MAGAZINE

知的障がいがある人の自立と共同を支えるグループホーム

乗る人にも使う人にもやさしく。デイサービスセンター福祉車両

SDGsの達成に向けて万博から未来につながるワクワクを

触れ合いの機会が、希望の光に。第29回「全国盲ろう者大会」

地域の皆様の健康を守るために。防府競輪場「防府市がん集団検診」

パンの製造・販売事業で障がいのある人も自分らしい生き方を

小さな素材で大きな社会貢献を。島根大学 森本研究室

ロボットへの情熱が農業を支える力に。法政大学 人間支援ロボット研究室

18P COLUMN 福祉車両 幸せに暮らせる地域、社会を創る移動支援

検診車 誰一人取り残さない、福祉と健康に寄与

19P 2026年度 競輪とオートレースの補助事業概要

競輪とオートレースは、 日本中のファンに 愛されるプロスポーツです。

速さだけでは勝てない「頭脳戦」。

競輪



ブレーキのない自転車で、バンクと呼ばれるすり鉢状のコースを周回して順位を争う競技。先頭は台風並みの風力を受けるため、レース序盤は選手の風よけとして誘導員が走ります。スピードに加え、周りの選手がいつどう出るかを考えながらの掛け引きも面白いところ。レース終盤は一気に追い込み、ドラマティックな展開に。エンターテインメントスポーツとして、ファンを魅了しています。

KEIRIN 00

時速 150km の「超接近戦」。

オートレース



8台のバイクで、内周500mのだ円形のオーバルコースを6周して順位を争う競技。使うマシンは、ブレーキやメーターなどを削ぎ落とした、ハンドルの高さが左右で異なる専用のバイク。抜きつ抜かれつの超接近戦で、男女の区別なく同じレースを走ります。10mきざみのスタートラインを設け、選手の実力によって距離に差をつける「ハンデレース」で、最後まで目が離せないレースを楽しめます。

Auto Race

競輪とオートレースは、売上の一部を用いて、
ものづくり、スポーツ、地域振興等
社会に役立つ活動を応援しています。

機械振興補助事業

振興事業補助

- 自転車・モーターサイクル・障がい者スポーツ
- 安全・安心、生活の質の向上、防災・減災
- 機械技術を活用した福祉機器の振興
 - 福祉機器の整備
- 国際競争力強化に資する標準化の推進
 - ものづくり支援
- 地域の機械産業の振興
- 省エネルギー等の環境分野の振興
 - 医療機器の振興
 - 医療機器の整備
 - 教育用機器の整備

公設工業試験研究所等

- 機械設備拡充
- 人材育成等
- 共同研究

研究補助

緊急的な対応を必要とする事業への支援

公益事業振興補助事業

公益の増進

- 自転車・モーターサイクル
- スポーツ(障がい者スポーツを含む)
- 社会環境
- 国際交流
- 医療・公衆衛生
- 文教・学術文化
- 新世紀未来創造プロジェクト

社会福祉の増進

- こども・若者
- 高齢者
- 障がいのある人
- 地域共生型社会支援事業
- 幸せに暮らせる社会を創るための活動や車両・機器等の整備

復興支援

研究補助

緊急的な対応を必要とする事業への支援

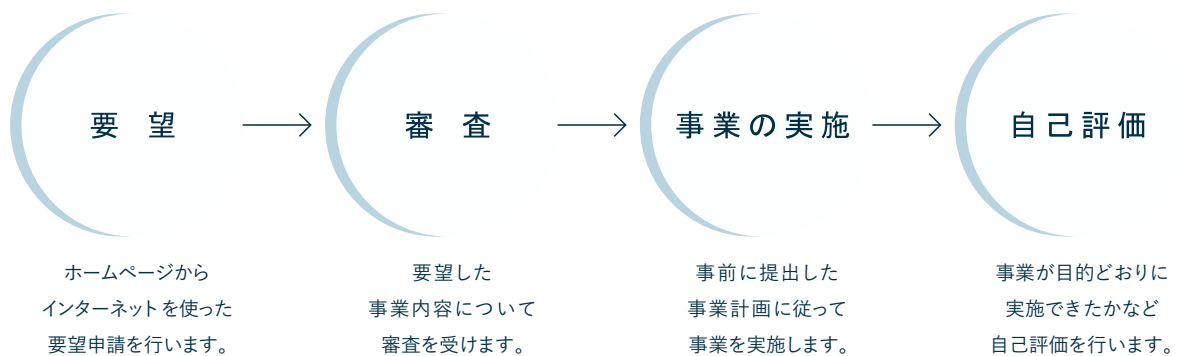
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

※この冊子でご紹介する事業は一例です。その他の事例を含め詳しい情報は、競輪とオートレースの補助事業のホームページに掲載しております。
ぜひご覧ください。

※上記プロジェクトの概要は変更になる場合があります。

競輪とオートレースは 社会に役立つ活動を応援します。

競輪とオートレースの補助事業



<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

※補助事業の選定については、外部委員から構成される補助事業審査・評価委員会において慎重に審査した上で決定しています。

ひとりひとりの思いから、感動のドラマが生まれる。

社会を変えるプロジェクトをSNSで続々公開中！

競輪とオートレースの
補助事業の最新情報を
チェック！



競輪とオートレースの補助事業

現在公開されているコンテンツの数

競輪とオートレースの補助事業は、
日本全国に広く利用されています。
研究補助や社会福祉、自転車イベントなど
幅広い社会課題の解決を支援しており、
みなさんの身近な場所と
競輪とオートレースの補助事業は
つながっているかもしれません。

北海道

1件

東海・北陸

6件

中国・四国

10件

東北

4件

関東甲信越

36件

関西

12件

九州・沖縄

9件

CYCLEサイトでは CYCLEアンバサダー 宇賀なつみさんが 競輪とオートレースの補助事業を紹介！

▼ Webサイトのアクセスはこちらから

<https://www.jka-cycle.jp/>

JKA CYCLE



CYCLEアンバサダー
宇賀 なつみ



CYCLE MOVIE・MAGAZINEで 補助事業の内容を詳しく紹介



さまざまなタグで気になる記事を 探すことができます！

- 公益の増進
- 社会福祉の増進
- 振興事業補助
- 研究補助
- 東北
- 首都圏
- 関東甲信越
- 東海・静岡
- 北陸
- 近畿
- 山陽・山陰
- 四国
- 九州
- NPO法人
- 一般財団法人
- 一般社団法人
- 公益法人
- 公益社団法人
- 社会福祉法人
- 小学校・中学校・高等学校
- 大学
- 地方自治体

自転車の力で アジアを、 スポーツ界を 盛り上げる

アジア有数の自転車競技施設で
行われた合宿を競輪選手が訪問

振興事業補助

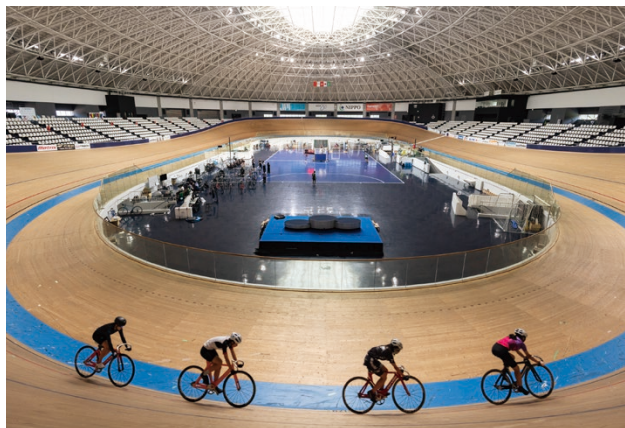
東京都

自転車(競技力向上等)



世界でも有数の伊豆ベロドロームへ

1965年、静岡県伊豆市に開設された「日本サイクルスポーツセンター」。東京2020オリンピックで自転車競技会場として使用された伊豆ベロドロームの他、MTBコースやロードサーキットコースなど多彩なコースが完備されています。



最大傾斜角度45度、木製仕様走路の伊豆ベロドローム

世界でも有数の自転車競技施設であるこの場所は、大会や強化合宿の開催も盛んです。その運営の一部に競輪とオートレースの補助事業が活用されていると知った競輪選手の道場見規選手が、現地を訪れました。

道場選手：「今日はジュニア選手の合宿開催日だと聞いて来ました。若い人たちの勇姿を全力で応援したいです！」



日本サイクルスポーツセンターを訪れる道場選手

道場選手を迎えてくれたのは、日本サイクルスポーツセンターの野田尚宏さん。施設全体の運営に携わりながら合宿のコーチも担当しています。



日本サイクルスポーツセンターの野田さん

野田さん：「日本サイクルスポーツセンターは、自転車競技レベルの向上を目指してつくられた施設。中国や東南アジア諸国といった海外からアスリートを招いてトレーニングを実施するなど、国際的な活動にも力を入れています。今日の合宿でも国内外からたくさんの方が参加してくれました」

合宿会場では、未来のトップアスリートを発掘する「J-STAR プロジェクト」のメンバーや強豪校の自転車競技部員など、さまざまなメンバーが練習に励んでいます。

道場選手：「非常にクオリティの高いプログラムで、僕も参加したいぐらいです！」



250mバンクを何周も駆け抜けるジュニア選手たち

夢に向かって頑張る日本のジュニアたち

トレーニング終了後、道場選手は参加選手のみなさんに合宿の感想や将来の夢などを聞いてみました。

増村虹那さん：「合宿は国際交流ができる貴重な体験。自転車競技でのオリンピック出場を目指して、これからも頑張りたいです」

清野心花さん：「合宿の魅力は他選手の走り方が見られること。その刺激を成長につなげています」

黒田董さん：「私が住む地域は室外コースしかないのですが、これほど整備された環境で走れる合宿はとてもいい経験になります」

日高虎太郎さん：「僕の将来の夢は競輪選手です。合宿ではトップ選手と同じ環境でトレーニングできるのがとてもいい刺激になります」



将来の夢や合宿の感想を伝える選手のみなさん

それぞれの話を聞きながら、自身が競輪選手を志した当時の心境を思い出す道場選手。「日本サイクルスポーツセンターをきっかけに、若い人が自転車競技と出会う機会が増えれば、自転車競技界全体の発展にもつながると思います」とエールを送りました。

自転車競技がスポーツ界全体に貢献

その後、道場選手は改めて野田さんから話を聞きます。



補助事業には本当にさまざまな面で助かっている、と笑顔に

野田さん：「我々は国内外の選手を対象に活動を続けていますが、合宿や大会の開催、施設の運営維持には多大な資金が必要です。競輪とオートレースの補助事業があることはとても心強いですね。あらゆる面で活用させてもらっています」

道場選手：「僕たちがレースを走ることによって生まれた売上の一部が、自転車競技界を盛り上げるために役立っていると知れてとても誇らしいです」

また近年では、日本サイクルスポーツセンターが長年培ってきたトレーニングノウハウがスピードスケートや水泳、ラグビー、サッカーなどのスポーツ種目に導入される動きが活発化しているそうです。

道場選手：「若い人が自転車競技に興味を持ってくれば競輪界も盛り上がりそうですし、僕自身も“負けられない”とさらに頑張れそうです。スポーツ業界全体が活性化するよう、これからも応援しています！」

毛髪を使って オーバー トレーニング 症候群を予防

ガールズケイリン選手が
大学の研究室を訪問

振興事業補助

新潟県

研究補助



毛髪を使ってストレス値を測定

過度なトレーニングによりさまざまな不調をきたす「オーバートレーニング症候群」。運動をする人なら誰でも起こりうる症状である一方、自覚症状が出にくいといった課題もあります。それらを解決しようと研究に取り組むのが新潟医療福祉大学 健康科学部の講師、越智元太さん。「毛髪を使ったアスリートのコンディション評価方法の開発」を進めています。この研究に競輪とオートレースの補助事業が活用されていると知り、ガールズケイリンの高木佑真選手が大学の研究室を訪れました。



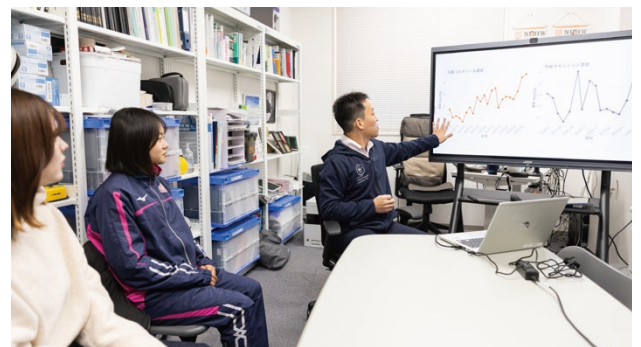
高木選手（左）を迎える越智先生（右）と清水さん（中央）

高木選手を迎えてくれたのは、越智先生と新潟医療福祉大学の陸上部に所属する清水さん。清水さんは長距離種目で数々の大会や駅伝に出場するアスリートであり、本研究にも積極的に協力されています。

高木選手：「今日はよろしくお願いします。先生の研究について詳しく教えてください！」

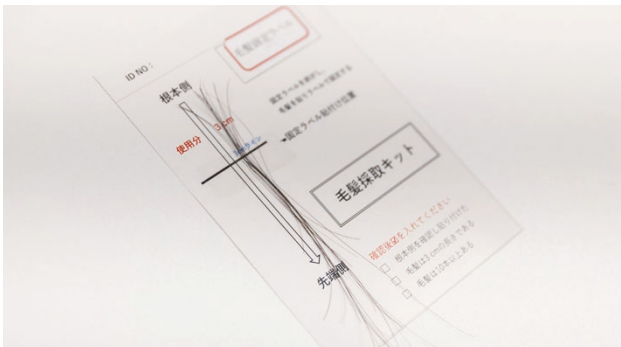
越智先生：「オーバートレーニング症候群に明確な診断基準はなく、発症原因も解明されていません。予防には原因解明が必要だと考え、私はまずストレス値と運動パフォーマンスの関連性に注目しました。人間は体に負担がかかったり強いプレッシャーを感じたりすると、体内でコルチゾールというストレスホルモンを発生させます。そこで、協力者から毎月毛髪を採取してコルチゾール値を計測。同月のトレーニング内容や心理状況との関連を調べました」

そう言って、清水さんの計測データをもとに説明をしてくれる越智先生。高木選手も「ケガをしているときよりも、回復後の方がストレス値は高いんですね」と感想を伝えます。



画面を指しながら、真剣なまなざしになる越智先生

越智先生：「休んでいる間はトレーニング量が減り、体への負担も少なかったからでしょうね。“オーバートレーニング症候群にならないためにトレーニング量を減らそう”と言うのは簡単ですが、それではアスリートが望む結果は出せません。大事なのはオーバートレーニングにならず、好成績が出せるベストなラインを知ることです」



実際に採取された毛髪サンプル

越智先生から研究に取り組むようになった背景や今後の研究方針についてもお話を伺った後は、清水さんにも研究に協力しようと思ったきっかけやアスリートの一人として日頃どんな悩みを抱えているかを聞いてみました。



アスリート目線で語り合う高木選手と清水さん

清水さん：「私はよくケガをするんです。越智先生の研究を知り、ケガを予防するにはストレス評価が大事なのではないかと思って協力するようになりました」

高木選手：「ガールズケイリンは月2～3回はレースに出場しますし、油断するとオーバートレーニングになりやすい競技かもしれません。越智先生の研究が、私たちの悩みや問題を解決するきっかけになると嬉しいです」

スポーツ業界にプラスの変化を



レースを通しての貢献に、感慨深げになる高木選手

高木選手：「どのお話も興味深く聞かせてもらいました。私たちの活動によって生まれた売上の一部が、研究に貢献しているかと思うと嬉しいです」

越智先生：「ストレス値の計測や測定機器の導入には費用がかかります。競輪とオートレースの補助事業を活用したおかげで、研究速度は格段に上がりました。とても感謝しています。今はアスリートが主な対象ですが、いずれは部活に励む子どもたちや高齢者の方にも活用したいと考えています」

高木選手：「越智先生の研究は、スポーツ業界にプラスな価値を生み出してくれそうですね。これからも応援しています！」

この研究が進めば、社会全体の運動習慣が促進されるきっかけにもなるのではないのでしょうか。競輪とオートレースの補助事業は、未来のためにチャレンジする人や事業を応援し続けます。



高校生が 地域の人と 協力して 町おこし

オートレーサーが
静岡県の高校に潜入

振興事業補助

静岡県

新世紀未来創造プロジェクト



地域の人と共に地元の良さを再発見

静岡県浜松市にある天竜区は、都市部への人口流出や高齢化などの課題を抱えています。その課題に立ち向かい、地域活性化に取り組むのが静岡県立天竜高等学校の生徒たち。有志サークル「天竜ラボ」として、地元の人と関わりながらさまざまな町おこしを繰り広げています。

この活動には競輪とオートレースの補助事業が活用されており、「高校生のみなさんがどんなことに取り組んでいるかを知りたい」と、オートレーサーの北市唯選手が天竜高等学校の校舎を訪問。天竜ラボが主催する若者会議の様子を見学しました。



天竜高等学校を訪れる北市選手

この日は、地域のみなさんと生徒が一緒になってディスカッションを開催。北市選手もゲストとして参加します。「名産の五平餅を使って何かできないか」「どうすればクローバー通り商店街をもっと盛り上げられるだろう」など、さまざまなアイデアが集まります。最後

は、それぞれが考えたアイデアの発表タイムです。米俵を担いで走る棚田大レースや写真コンテストの開催、五平餅づくりや星空観察が楽しめる「くんま水車の里」の宿泊体験など、地域の特産や名所を活かした企画が次々と集まりました。「どれも面白そう!」と、北市選手も興味津々です。



企画アイデアを発表する生徒のみなさん

先生目線で語る天竜ラボの取り組み

盛り上がりを見せる天竜ラボですが、どのような経緯で始まったのでしょうか。北市選手は担当の栗飯原（あいはら）先生にお話を聞いてみます。

栗飯原先生：「高齢化が進むにつれて地域が衰退するなどの課題がある中、生徒が自ら“地域の役に立ちたい”と天竜ラボを立ち上げました。高校生たちを応援したいと、住民のみなさんはいつも協力的。会議の参加者も少しずつ増えているんですよ。過去には、天竜区の名産品である椎茸や獣害から発生した鹿肉を使った

“天竜おにぎり”や、地域商店の看板をキーホルダー化した“天竜ガチャ”も生徒考案で商品化されています」



栗飯原先生と北市選手

北市選手：「競輪とオートレースの補助事業は、天竜ラボや若者会議の運営にどう役立っていますか？」

栗飯原先生：「ポスターやパンフレットの制作費、学校外で活動する際の交通費などに活用しています。制作物に“この活動は競輪とオートレースの補助を受けています”と記載すると、生徒の気持ちも引き締まるようです」



天竜ラボの取り組みや事例を紹介するレポート

若者の成長が地域の未来につながる

続いて、渡辺校長や天竜ラボに所属する生徒にもお話を聞いてみました。

渡辺校長：「天竜ラボは授業や部活動とは異なる有志活動。そのため、活動費などの捻出に限界があります。しかし、競輪とオートレースの補助事業を活用してからは活動規模が大きくなりました。それに比例して、生徒の成長も大きくなっているように感じます」



生徒の活動状況について語る渡辺校長



天竜ラボの生徒にインタビューする北市選手

生徒さん：「天竜区の魅力を地域外の人に知ってもらい、“行ってみたい”と思ってもらえるよう活動を続けています。以前の私は人前で話すのが苦手でしたが、若者会議に参加するうちに自然と自分の意見が言えるようになりました」

生徒さん：「大学などで自分たちの取り組みを発表する場にも恵まれました。自分の意見をプレゼンする機会や、大勢の前で発表する経験は社会に出てからも役立つ力。天竜ラボが自分の成長につながったと思います」

地域に欠かせない存在となりつつある天竜ラボ。競輪とオートレースの補助事業は、地域貢献につながる活動や若者たちが未来のために頑張る取り組みを、これからも応援し続けます。



知的障がいがある人の 自立と共同を支えるグループホーム



福岡県筑後市にある共同生活援助グループホーム「はねっこ」では、知的障がいや精神障がいのある方が入居し、日中は働き、夜間や休日は支援を受けながら生活しています。かつてはこうした施設が不足し、働く場はあっても生活の場がないという課題がありました。そんな状況に対して動いたのが、特定非営利活動法人はねっこ福祉会で理事長を務める北島スエ子さん。「知人から競輪とオートレースの補助事業の話聞いたときは救いだと思いましたね」と語ります。

補助事業のサポートを受けて開設された「はねっこ」は、入居者たちが自分らしく笑顔で過ごせる場所。施設内は手すりの付いた浴室やわずかな力で開け閉めできる引き戸の扉など、安全な住環境にこだわっています。さらに、8つの居室とリビングなどの共有スペースがあり、個の生活と共同生活が共有できるように。入居者の方からは、「ここは静かで、入居してからよく眠れるようになりました」「みんなとおしゃべりする時間が楽しい」と喜びの声を聞かせていただきました。

障がいのある人々にとっての「第二の家」へ。この地域で安心して心地よく生きていける環境が「はねっこ」には込められていました。



浴室の手すりは立っていても座っていても使える仕様に

乗る人にも使う人にもやさしく。 デイサービスセンター福祉車両



特別養護老人ホームとデイサービスセンターを兼ね備えた介護老人福祉施設「こもれび」。この場所へ、安心・安全に送り迎えするのがスロープ式車椅子仕様の車両です。これまで使用していた車両は導入してから16年が経ち、走行距離は15万km超え。メンテナンスの回数や故障頻度も多くなり、新たな車両の導入を急務としていました。

「送迎車を利用されるみなさんに安心して乗っていただくために。以前お世話になった、競輪とオートレースの

補助事業に申請しました」と語るのは、社会福祉法人それいゆの井上卓さんと小西裕司さん。その後、軽自動車の福祉車両が導入され、快適な乗り心地に喜ぶ利用者の方も多いい中、実は施設の女性職員さんからのニーズも高かったとか。「細い道が多いこの地域で、運転に不慣れな大型車の送迎に不安を感じ、プレッシャーがあったようです」と、そんな状況が今では、多くの職員さんが平常心で運転できるようになったそうです。

「こもれび」のある福岡県大牟田市は高齢者の多い地域の一つ。これからの高齢化社会に向き合うため、車両をはじめ、さまざまな施設が充実していくことは、今は介護を必要としない世代の将来の安心にもつながっていきます。



女性職員さんでも、車椅子の乗降サポートが楽々スムーズに

SDGsの達成に向けて 万博から未来につながるワクワクを



2025年4月から10月にかけて開催された「大阪・関西万博」。人類共通の課題解決に向けた技術やアイデアなどを創造・発信する万博にも、競輪とオートレースの補助事業が関わっています。

来場者でにぎわう会場の一角にある、人が主役のパビリオン「フューチャーライフヴィレッジ」。取材日当日は、交流イベント「ミライ×未来ソーダ」が開催され、性別や年代の異なる参加者によるワークショップで盛り上がっていました。テーマは「持続可能で豊かな社会

を創る」。そのための課題とは？解決のためのアイデアは？実現可能性はあるか？という視点から、一人ひとりが主役になって意見を出し合います。そして、ワークショップの最後には、「世代交流がない課題に対して、子どもと高齢者が一緒に楽しめる場をつくったらどうか」「祭りの担い手不足のため、若い方に祭りを魅力的に感じてもらう」など、さまざまな意見が発表されました。

交流イベント終了後、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 共創事業チームの前田篤志さんは、「人と人の会話から生まれたアイデアや気づきが、行動を変えるきっかけになったら嬉しい」と、万博を未来のレガシーにつなげたいという想いを語ってくれました。



未来への想いを一つに活気づく会場の様子

触れ合いの機会が、希望の光に。 第29回「全国盲ろう者大会」



目と耳の両方に障がいを持つ盲ろう者と、通訳・介助員の方々が一堂に会する第29回「全国盲ろう者大会」が、2025年10月に宇都宮市で開催されました。盲ろう者のみなさんが直接触れ合い、コミュニケーションが取れる貴重な場となっています。

大会が開かれたのは実に6年ぶり。会場では盲ろう者のみなさんが、相手の手に触れて手話を交わす“触手話”を中心に、再会を喜びつつ、積極的にコミュニケーションを取っていました。大会の今後に関する討論会も開か

れ、運営に関わる盲ろう者の藤鹿さんが「交流を絶やしてはいけない。意見を言うだけでなく、どうすれば実現できるかまで一緒に考えよう」と、盲ろう者同士の結束や協力を呼びかけているのが印象的でした。

また、全国盲ろう者協会の事務局次長である小林慎吾さんは、「盲ろう者の認知度が低いだけでなく、全体の人数に対して、通訳・介助者が足りていないことも課題です。大会を通じて一人でも多くの方に、この現状を認知していただけたら」と語っています。

まだまだ認知や理解が足りない中でも、関わる人々が一丸となって前進しようとする姿に、静かで大きな熱量が感じられた大会でした。



触手話を中心に、全身で楽しんでいる方が多く見られた

地域の皆様の健康を守るために。 防府競輪場「防府市がん集団検診」



2025年11月、リニューアルされて間もない防府競輪場の敷地内で「防府市がん集団検診」が行われました。競輪場でがん検診という業界初の試みながら、会場には朝早くからさまざまな年代の方が訪れていました。

この日、会場に停まっていたのは大きな1台の検診車。競輪とオートレースの補助事業により導入され、国が推奨する胃がん（X線）検診、肺がん・結核検診を1台で実施することができるため、地域を巡回しながら、より多くの人に検診の機会が提供できるようになってい

ます。競輪場と検診という意外な組み合わせに、受診者の方からは「競輪が、私たちの生活に貢献してくれていると知って驚いています。身近なイメージを持つようになりましたね」と驚きと喜びの声をいただきました。

また、今回のがん集団検診を実行した防府市健康増進課の坂本さんは「一人でも多くの方に検診を受けていただくための、受診しやすい体制づくりにつながりました」、防府市文化スポーツ観光交流部の工藤康彦競輪局長は「レースの売上の一部を活用し、地域の方々の健康維持に還元していくというモデルケースができました」と、地域の健やかな幸せを願いながら笑顔で聞かせてくださいました。



「競輪場から、地域の皆様の健康や楽しみの場を」と工藤競輪局長

パンの製造・販売事業で 障がいのある人も自分らしい生き方を



北海道伊達市初の精神障がいのある方のための就労支援施設「i・box」。社会福祉法人タラブの運営する障がい福祉サービス事業所で、現在ではおよそ70名の方がパン製造や売店運営業務などの仕事を通じて、働く喜びを感じながら一般就労を目指しています。

「私たちは就労支援はもちろんのこと、利用者さん※のさらなる工賃アップを使命としています。障がい福祉サービス事業は低賃金というイメージを脱却したかったんです」と語るのは、i・box施設長の奥出さん。工賃

を上げるためには、高品質なパンを適正な価格で販売することが必要になります。そこで、競輪とオートレースの補助事業を通じて、パンの焼きと発酵が一台でできる最新式のドウコンー体型オーブンを導入。導入後は一度に製造できる量も増え、販路拡大から収入の増加へ。工賃としての対価は、安定した生活を守るだけでなく、利用者さんの働きがいや自信にもつながっているようです。利用者さんからは、「工賃をしっかり貯めて旅をしたい」という声もありました。

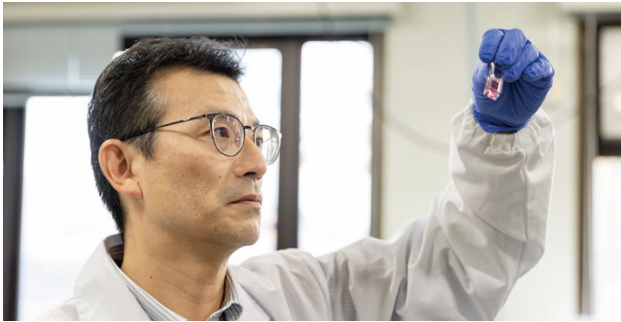
現在、i・boxのパンを販売しているのは伊達市内に2ヵ所。社会貢献としてだけでなく、香ばしく焼かれたおいしいパンは地域の人々にも愛されていました。

※i・boxで働く障がいのある方々のこと



工賃は生活費や趣味に使っているというご利用者さん

小さな素材で大きな社会貢献を。 島根大学 森本研究室



超高齢化社会の日本において、重要な課題の一つである健康寿命の延伸。その鍵となるのが、人間の細胞内に存在するミトコンドリアです。私たちに必要なエネルギーを生み出す器官である一方で、機能不全になると癌や糖尿病といった病気や不調の原因になります。投薬を試みても、悪いものを排除する免疫反応により薬物まで排除されてしまうため、治療が難しいとされていました。そんな中、島根大学の森本研究室が研究しているポリマー（高分子）を用いることで、課題が解決

されようとしています。

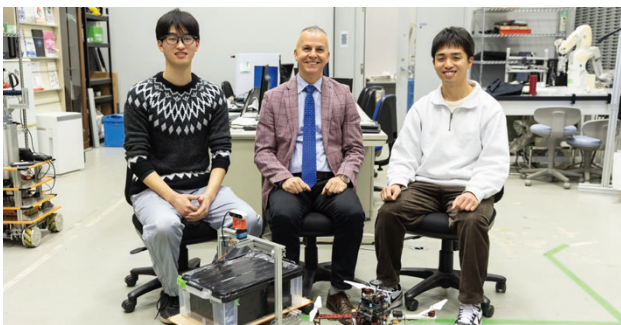
「我々のポリマーはミトコンドリアの免疫反応を回避でき、蛍光色素をつけてミトコンドリア内部を観察しやすくもできるんです」と語る森本教授。ポリマーの元となる素材の設計開発から検証など、通常は分割して研究する複数の段階をワンストップで担い、研究者として強いこだわりを持ってポリマーに向き合っています。

さらに、研究には社会課題に対する強い思いも。「老後も元気で、豊かな人生を送れる方が一人でも増えてほしい」と言う森本教授の言葉に違わず、同研究室のポリマーはミクロな存在であっても、社会に対して大きな影響を与える可能性を秘めていました。



素材と未来について語る森本教授の顔には期待に満ちた笑顔が

ロボットへの情熱が農業を支える力に。 法政大学 人間支援ロボット研究室

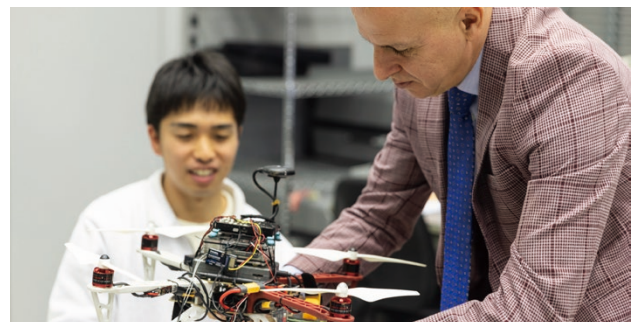


少子高齢化にともない、日本の農業の後継者不足や高齢者への負担増加が課題になっています。そこで注目されているのが、スマート農業とも呼ばれる、ロボットによるオートメーション（自動化）です。今回は、農業用ロボットを研究しているチャピゲンツィ教授に、鹿児島県徳之島での実験について伺いました。

「自律走行型ロボットとドローンを使い、サトウキビの生育管理に関する実験を行いました。地面と上空の両方から茎が密集する畑を撮影し、最終的に AI も活用

して生育状況や収穫量を予想するというものです。人間では見ることができない視点から、楽に管理できるようになります」とチャピ教授。また、実験は遠い離島で行ったこともあり、人や荷物の移動に競輪とオートレースの補助事業のサポートが助かったと話してくれました。

「今後、研究の精度を高めていくことでもっと多くの農作物に対応ができれば、支えられる高齢者の数も増えていきます。さらに、農業だけでなく、病院から老人ホームまで幅広く活躍できるロボットの開発につながれば、高齢者のクオリティ・オブ・ライフも高められます」と語るチャピ教授の真剣なまなざしには、高齢化社会を支えたいという想いが込められていました。



チャピ教授と、実験に使用したドローン

（ 福祉車両 ） 幸せに暮らせる地域、社会を創る移動支援

地域の福祉環境向上を目指し、施設利用者の送迎などに使われる福祉車両の購入を支援しています。幸せに暮らせる社会を創るための恒常的な支援だけでなく、大雨などで被災した地域における緊急支援や、新型コロナウイルスの感染拡大などの社会情勢に応じた追加支援も実施。地球環境への配慮などの観点から、HV（ハイブリッド自動車）やコンパクトカーの福祉車両整備も積極的に支援

しています。

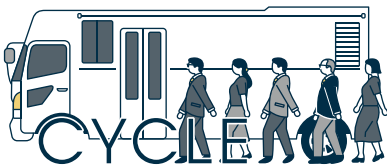
2026年度は208件（4億8865万円）を助成しました。地方において公共交通機関の減少・サービス水準の低下などが社会問題となっていることに加え、移動支援に対する需要はますます増えていくと考えており、福祉車両整備の支援に一層注力していきます。



訪問入浴車と分割浴槽



（ COLUMN | 福祉車両・検診車 ）



胸部X線撮影装置



（ 検診車 ） 誰一人取り残さない、福祉と健康に寄与

地域社会の医療環境の向上を目指し、医療機関の少ない地域や学校・職場の集団検診などで使用される検診車についても、整備の支援を積極的に進めています。検診車は、すべての人の福祉と健康の向上に向け、病気の早期発見と予防のために使用されています。

2026年度は37件（9億6925万5000円）を助成しました。近年は、病院での受診や外出の機会が減っており、

健康を害する方が増えています。検診車の積極的な導入によって受診機会を増やすだけでなく、既存のX線デジタル検診車よりも撮影精度が高く、新型感染症対策に有効であるとされているCT検診車を補助対象とすることで、重症化の抑止やさらなる健康増進に寄与することを目指します。

※助成には検診機器の乗せ替えを含みます。

機械振興補助事業一覧表

2026年4月1日現在(単位:千円)

事業区分	対象事業	採択	
		件数	金額
振興事業補助	自転車競技に関する機材の開発・改良・調査・研究	4	221,797
	自転車・モーターサイクル(社会づくり、安全・安心)	4	133,773
	自転車・モーターサイクル(IOT化の促進)	1	97,910
	障がい者スポーツ	1	13,522
	安全・安心、生活の質の向上	6	89,256
	防災・減災に資する取組み	4	58,942
	福祉機器の振興	0	0
	福祉機器の整備	268	1,130,250
	国際競争力強化に資する標準化の推進	9	68,431
	ものづくり支援	10	114,871
	地域の機械産業の振興	2	10,844
	省エネルギー等の環境	2	25,170
	医療機器の振興	1	23,950
	医療機器の整備	4	48,335
	教育用機器の整備	44	123,473
	公設工業試験研究所(機械設備拡充)	52	1,558,332
	公設工業試験研究所(人材育成等)	5	4,711
	公設工業試験研究所(共同研究)	4	9,832
	計	421	3,733,399
研究補助	個別研究	134	666,221
	若手研究	39	77,784
	開発研究	9	135,000
	ステップアップ研究	11	109,990
	複数年研究	58	579,231
	計	251	1,568,226
	合計	672	5,301,625

公益事業振興補助事業一覧表

事業区分	対象事業	採択	
		件数	金額
公益の増進	自転車(競技力向上等)	2	243,373
	自転車・モーターサイクル	53	1,120,474
	スポーツ・パラスポーツ	17	280,748
	社会環境	8	329,863
	国際交流	6	63,682
	医療・公衆衛生	63	1,137,755
	文教・学術文化	11	104,067
	新世紀未来創造プロジェクト	12	11,584
	計	172	3,291,546
社会福祉の増進	こども・若者	7	44,989
	高齢者	1	2,411
	障がいのある人	17	181,169
	地域共生型社会支援事業	2	16,083
	幸せに暮らせる社会を創るための活動や車両・機器等の整備	242	701,116
	計	269	945,768
	復興支援事業	4	11,440
	研究補助	5	14,572
	合計	450	4,263,326

